

(試験研究課題年次別解説集様式3号：完了課題用)

資源添加率向上技術開発研究(トラフグ)

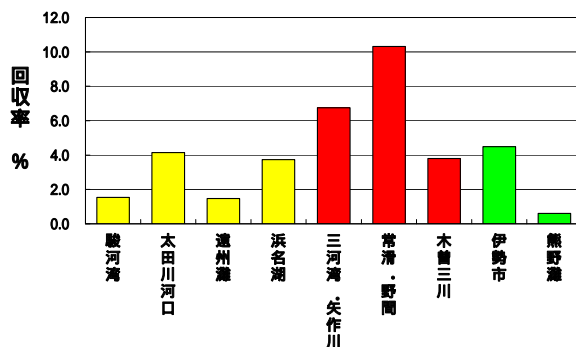
(予算区分 県単独 研究期間 平成12～19年度)
担当：浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

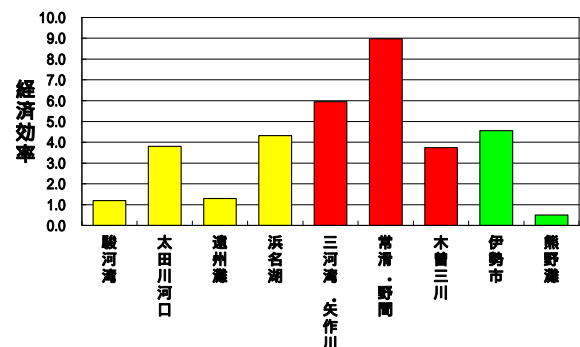
- ・ 静岡県におけるトラフグ漁は、遠州灘を主漁場として行われていましたが、平成元年の大漁(92ト)を契機に、県内主要漁業の一つとなりました。
- ・ ふぐはえ縄漁業者は資源管理のため、漁具・漁法・漁場に関する規制を設け、さらにトラフグ種苗の放流、小型魚の再放流等にも取り組んできました。
- ・ 熊野灘から駿河湾にかけて分布、回遊しているトラフグは同一系群であり、東海三県(静岡・愛知・三重)全体で資源の利用、維持管理をする必要があります。
- ・ 以上のことから、より効率的な資源の増大を目指して、東海三県で共同して放流方法(放流適地、適正放流サイズ等)の検討を行いました。

【研究成果】

- ・ 東海三県で確立した新たなイラストマー標識(着色したシリコン樹脂)を用いて調査した結果、放流により高い回収率と経済効率が得られることが分かりました。
- ・ その中でも、愛知県の伊勢湾における放流効果が最も高く、それ以外にも伊勢・三河湾内には放流適地が多数あることが分かりました。
- ・ また、伊勢湾では中間育成を行わない小型サイズの直接放流でも、高い放流効果が得られることが示唆されました。
- ・ 県内では浜名湖と太田川河口がその他の海域に比べて、放流効果が高いことが分かりました。
- ・ 放流適地に、適正サイズで放流することにより、より効率的に遠州灘周辺(熊野灘～駿河湾)のトラフグ資源を増大することができ、さらに行政範囲を超えた東海三県全体の広域的な資源の増大管理を図ることが可能と示唆されました。



左図：放流海域別の平均回収率



右図：放流海域別の平均経済効率

両図とも1歳時における三県合計値

【研究成果の普及方法】

- ・ 普及事業の中で引き続き調査を実施し、放流効果の把握に努め、その成果は栽培漁業関係会議等を通じて関係者に広く提供します。
- ・ さらに得られた成果は、愛知県および三重県関係者との広域連携放流体制構築のための基礎資料として関係者に提供します。

(作成 平成20年3月)